


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2024年度 後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	北畑 孝祐	会員番号	0035959	
申請者の所属・職名	理化学研究所 IMS 免疫記憶研究チーム 特別研究員			
出席会議名	Keystone Symposia: T cell Differentiation in Tissue Microenvironment			
発表論文タイトル	Selective generation and maintenance of TCF1 ⁺ stem-like tissue-resident memory CD8 ⁺ T cells in the lung following resolution of respiratory virus infection.			

実施結果:

2025年2月3日から5日にかけてカナダのバンクーバーで開催された Keystone Symposia: T cell Differentiation in Tissue Microenvironment に参加し、研究成果を発表してまいりました。本学会には、Steve Jameson や David Masopust をはじめとする T 細胞免疫応答の第一線で活躍される著名な研究者が多数参加しており、発表内容のみならずディスカッションのレベルの高さにも驚かされました。学会参加を通じて、当該分野の最新の動向や今後の展望を確認する貴重な機会となりました。

私は「Selective generation and maintenance of TCF1⁺ stem-like tissue-resident memory CD8⁺ T cells in the lung following resolution of respiratory virus infection」という題目で、肺粘膜にて長期維持される CD8⁺組織滞在型記憶 T 細胞 (T_{RM}) の同定に関するポスター発表を行いました。ポスターセッションでは、Steve Jameson をはじめ、肺粘膜の CD8⁺T_{RM} 研究をリードされている研究者と直接交流する機会を得ることができ、ポジティブな反応をいただいたことは、今後の研究に対する大きな自信となりました。

ポスターセッションは夕食後の午後7時半から10時までと比較的長時間にわたるプログラムでした。お酒が振る舞われる和やかな雰囲気の中で行われ、終了時刻を過ぎても深夜まで議論が続くほど充実した交流の機会となりました。同世代の若手研究者とも意見交換や議論を交わすことができ、学術的な刺激を大いに受けました。また、ある研究者とは連絡先を交換する機会も得られ、国際的なつながりを築ききっかけを作ることができました。同分野の若手研究者と今後協力・競争する可能性を感じながら活発な議論ができ、非常に有意義な時間だったと感じております。

発表内容については本研究で使用した T_{RM} 検出法について多くの質問を受けました。実験系がやや複雑であることに加え、実験結果の解釈に直結する部分であるため、より明確に説明できるよう、データの提示順や論理の組み立てについて改善する必要性を認識しました。さらに、CD4⁺T_{RM} で我々が同定した CD8⁺T_{RM} 分画と類似した特徴を持つサブセットについて報告した研究者もおり、我々の研究が現在の研究の潮流と一致していることを再確認できました。その一方で、論文化に向けて時間的な猶予がないことも痛感しました。現在、その研究者とは連絡を取り合い、同時投稿の可能性について議論を開始しています。

本学会への参加で得た経験と知識を今後の研究に活かし、より一層研究に精進し免疫学の発展に貢献できるよう努力してまいります。最後に、岸本忠三先生および Tadamitsu Kishimoto International Travel Award の選考委員の諸先生方、そして、ご推薦いただきました山本一彦先生に深く感謝申し上げます。

注) 本参加記は手書きでなく、Word を使用して作成してください。